

# 新型コロナウイルス感染症対策～部活動～

## 【基本的な感染対策】

### ○活動前後の体調等の確認

- ・健康観察(検温カードの確認)  
→ 37.0℃以上の熱やかぜの症状がある場合は、保護者に連絡し、帰宅させる。
- ・手洗い、うがい、手指の消毒を行う。
- ・マスク、汗ふきタオル、飲み物用水等、持参しているか確認する。
- ・活動終了時には集合させ、一人一人の体調確認を行う。状況を保護者へ連絡する。

### ○活動前の会場準備

- ・手洗い場等には、石けん(ポンプ型が望ましい)を用意する。また、手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)があるとよい。
- ・会場入り口付近には、手指消毒剤(アルコール等)を設置する。
- ・室内の場合は、常にドアを広く開け、窓を多少開けておくなど密閉した空間を作らないようにする。

### ○活動後の会場片付け

- ・練習や練習試合終了後は、使用した道具やトイレ、会場のドアノブ等の消毒を行う。
- ・使用済みのマスクやテーピングなどはビニール袋に入れ密封して縛り、回収する人はマスクや手袋を着用する。練習試合時は、原則各チームの持ち帰りとする。

## 【活動するに当たっての留意点】

### <運動部>

#### ○練習・練習試合において

- ・活動前後の手洗いや手指消毒を徹底し、練習中にも適宜機会を設ける。特に、練習終了後は30秒の手洗いを必ず実施すること。(選手だけでなく、指導者も)
- ・種目にかかわらず、選手同士が接触しないような練習を工夫する。周囲の人となるべく距離(2m以上)空け、手をつなぐ腕を組むなどは避ける。
- ・少人数で活動させるとともに、大声を出したり向かい合っでの発生をしたりしない。
- ・人が密集したり接触したりする機会をなるべくつくらず、なるべく個人の技能を高める練習など、内容を工夫する。
- ・汗ふき用タオルや飲み物の水筒は、個人用として共用しない。また、給水機会が手や顔や口付近に持って行く機会となるため、給水前手指の消毒を徹底する。
- ・やむおえず使い回す道具を使用する場合は、使用前後の消毒を行う。試合球などではできるだけ複数用意し、こまめに消毒を行い交換しながら使用する。
- ・円陣を組んだり、ハイタッチや握手をしたりすることはしない。
- ・食事の際が最もリスクが高いため、選手同士の距離を空け、会話をしないで静かに食べる。指導者は食事場所を配慮する。
- ・できる限り換気をする。(試合間、タイムアウト毎、セット間等)

#### ○指導者・保護者について

- ・指導者・保護者についても、検温・体調確認を行い、少しでも発熱等の風邪症状が見られる場合は参加しない。
- ・応援の保護者も必要最小限にとどめ、マスクを着用し、大声での応援はしない。
- ・指導者はベンチでマスクを着用し、大きな声を出しての指導はしない。また、タイムアウトやセット間、ミーティングでの指導者の話は距離をとって行う。
- ・審判員のホイッスルについては、感染防止の観点から電子ホイッスル等を活用する。

## ○活動場所について

- ・活動場所は割り当てを工夫し、多くの生徒が集まらないようにする。

### 《活動人数の目安》

屋内：体育館 バasketボール コート1面 2チーム(25人)

バレーボール コート1面 2チーム(25人)

※体育館の設備(アリーナの広さ、観客席など)が十分確保できている場合は、3チームまで参加数を拡大できる。

武道館 柔・剣道場 1コート (10人)

卓球場 卓球台 1台(4人)

屋外：グラウンド 野球・サッカー・陸上 50人以下

テニスコート コート1面(6人)

## <文化部>

- ・演奏や合唱等の練習で、発声したり、息を強く吐き出したり吸ったりする活動を行う場合は、可能な限り野外で行う。
- ・やむを得ず室内で行う場合は、向かい合っただの活動は避け、少人数で、換気を行いながら、声や呼気が外に出て行くように練習するなど、工夫して活動する。
- ・吹奏楽部の楽器は個人持ちとし、共有しない。やむを得ず共有する場合は消毒を徹底する。(吹く楽器は絶対に共有しない)
- ・どの文化部も、小グループでの活動を主体とし、3蜜を防ぐ活動となるよう工夫する。
- ・パート練習やグループ練習は、一人一人の間隔を2m以上確保し、向き合わずに行う。個人練習が中心となるように計画する。